

建設水道委員会会議録

1. 開催年月日

令和2年11月12日 開会 13時30分 閉会 14時41分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

三宅文雄 多賀信祥 細羽敏彦 坊野公治
西田久志 佐藤 豊

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長 坊野公治

(2) 副議長 大滝文則

(3) 事務局職員

事務局長 和田広志 事務局次長 藤原靖和
主 幹 西本洋子 主任主事 塩出英也

6. 傍聴者

(1) 一般 0名

(2) 報道 0名

7. 発言の概要

委員長（三宅文雄君） 皆さん、こんにちは。

ただいまから建設水道委員会を開会いたします。

本日の協議事項は、1、所管事務調査事項「地場産業の振興に係る本市の取り組みについて」、条例の素案について、調査報告書について、2、その他でございます。

〈所管事務調査事項「地場産業の振興に係る本市の取り組みについて」〉

〈条例の素案について〉

委員長（三宅文雄君） 前回の委員会において条例素案について検討し、第5条、個人の嗜好の尊重の条文については削除するということで決定いたしました。

また、条例の前文については再度検討し、私が提案させていただきました修正案に変更するということが皆様のご了承をいただきました。前回の委員会で条文については協議が済みま

したので、修正したものを全体を通して朗読いたします。

お手元に資料を配付しておりますので、ご覧ください。

それでは、朗読いたします。

井原デニム条例案。「井原市は高級デニムの産地として知られている。元来、豊富で美しい水に恵まれているが、平野が狭く、効率的な稲作には不向きであったために、戦国時代末期頃に綿花の栽培が始まったと伝えられている。江戸時代には、藍の栽培を利用しての藍染め織物を手がけ、のちに家内工業としての機織りを地域産業として育ててきたという歴史がある。井原デニムは、多くの人たちの技術の蓄積とたゆまぬ努力の結晶であり、時代に即した商品開発を推進しつつ今日までつないできた賜物である。私たちは、多くの先人が夢見、あこがれ、受け継いできた歴史や文化に誇りを持ち、井原デニムの魅力を再発見することで新たな文化を織りなし、また未来へと紡いでいくように取り組んでいかなければならない。」

第1条、目的。「この条例は、井原市の特産品の代表であるデニムを愛用することにより、その価値を再認識して誇りを持ち、市民一人一人がその魅力を広めていくことを目的とする。」

第2条、市の役割。「市は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項の推進に努めるものとする。(1) 10月26日(デニムの日)には、積極的にデニム製品を身に着けること。(2) デニムが生産されるに至った経緯と歴史を語り継いでいくこと。(3) 生産者の創意工夫と努力を正しく評価すること。(4) 井原でしか生まれない価値を全国へと発信すること。(5) その他市長が認めること。」

第3条、事業者の役割。「事業者は、井原デニムの歴史を重んじ、伝統を継承するとともに新たな挑戦に努めるものとする。」

第4条、市民の協力。「市民は、第2条に掲げる事項の推進に協力するよう努めるものとする。」

附則、施行期日。この条例は令和〇年〇月〇日から施行するというふうになっております。

ということで、前回、皆様方と協議した条例案について朗読をいたしました。

それでは続きまして、次に後回しにしておりました条例の名称について協議したいと思います。今まで仮称で「井原デニム条例」としておりましたが、最終的にこの名称でよいのか、また変更したほうがよいのか、皆様方からご意見等ございましたらお願いいたします。

委員(西田久志君) これに付け加えることなく、直球勝負ということで、「井原デニム条例」でいいと思います。

委員長（三宅文雄君） 今、西田委員のほうから「井原デニム条例」でいいというふうなご意見ございましたが、他の委員の方、ご意見がございますでしょうか。

委員（細羽敏彦君） それでいいと思います。

副委員長（多賀信祥君） 私もいろいろ考えたんですけど、頭の部分で説明するよりも、報告書にもありますように、とにかく井原市を発信するということとデニムということですので、「井原デニム条例」が一番いいのかなと思います。

委員（坊野公治君） 私も、インパクトというたらおかしいんですけど、このままこれでいいと思います。

〈休憩中に委員間で協議〉

委員長（三宅文雄君） いろいろとご意見をいただきましたが、この条例の名前については「井原デニム条例」がいいのではないかなというご意見もありましたけれども、次回に皆様方から持ち寄っていただきまして、このかがみにふさわしい名前を考えていただくということで、この名前については保留にして次回に持ち寄るということで、それまでに皆様方で検討して持ってきていただければなというふうに思いますので、そういうことで進めていきたいと思います。これにご異議ございませんか。

〈異議なし〉

〈調査報告書について〉

委員長（三宅文雄君） 調査報告書については、前回の委員会で皆様方からご指摘をいただいた意見等について修正しております。

まず、1 ページの前文、「はじめに」について、最後のほうの「調査研究を重ねてまいりました」の前に「条例制定に向けて」という文言が入っていましたが、削除いたしました。また、後で協議をいたしますが、後文とのバランスを考えて文字の大きさを小さくしております。

次に、2 ページの調査の実施内容についてですが、前回までの建設水道委員会の開催結果を追加しています。こちらにつきましては、1 2 月定例会開会日に開催予定の全員協議会へ調査報告書を提出するまでの委員会開催、活動結果を追加することになるかと思っております。

それから、ページをめぐっていただきまして、1 8 ページをお願いいたします。

前回副議長より指摘がありましたデニム審査会の参加者の表記についてですが、何々さんというふうな名称になっておりましたけれども、フルネームといたしまして、敬称略ということで記入をさせていただいております。

それから、31ページをお願いいたします。

前回の委員会で多賀副委員長より提出のありました「繊維王国おかやま今昔」を参考資料2として追加しております。

以上までで、皆様方から何かご意見等ございましたらお願いいたします。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） ご意見がないようでございますので、ただいま協議しましたとおりに決定することにご異議ございませんか。

〈異議なし〉

委員長（三宅文雄君） 次に、25ページの「あとがき」について協議したいと思えます。

前回の委員会で、この「あとがき」は、建設水道委員会で地産地消、地元消費について調査した結果、条例制定が必要であるとの結論になったという流れにして、発信の継続性などという言葉盛り込んだほうがよいのではないかというご意見でございました。

以上のことを踏まえ、私のほうで修正したものを資料として添付しておりますのでご覧ください。

委員（西田久志君） 変わったところを教えていただければ。2行ほどはそりゃあ新しく追加されとるようなんですけど。

委員長（三宅文雄君） 前回とは大きく変更いたしております。前は文字を大きくして、私の考えの下で作成しておりましたけれども、先ほど申しましたように地産地消、地元消費について調査した結果ということで、始まりからずっと条例制定に至るまでのプロセスを入れたということで、それに基づいて原案を作成しております。

それから、「あとがき」が、とじとる分と1枚物のと2枚行つとるかと思うんですが。ホッチキスで留めた分は25ページに「あとがき」を書いてありますが、こちらについては、前振りなく建設水道委員会ではということで、一応読んでみます。

25ページをご覧ください。

「建設水道委員会では、井原市の人口が減少している現状において、市内事業所の売上減少が将来的に予測されることから、地場産品消費の観点からの地産地消、地域経済の活性化を目的とした地元消費、さらには、市産品の市外への販路拡大を目指した地域商社などの調査・研究をしてきました。

また、行政視察では、地元消費、地域商社の取り組みを先進的に行っている自治体の事例を研究し、一方で、地域の特産品に関するアンケートにより市民のニーズ・意識調査を行って課題を探り、さらに、市内の関係事業者等と意見交換を行い課題の深掘りを行ってきました。こうした調査の中で見えてきた課題として、売上減少を補うための販路拡大とともに、井原市の独自性を市内外に向けて発信することによって知名度を向上し、地場産業の活性化・地元消費の拡大につなげていく取り組みを求める声を多く聞きました。令和2年に入り、コロナ禍によって井原市を含め全国的に通常の経済活動ではなくなったため、販路拡大を促進する調査については継続できない状況となりましたが、もう一つの課題である、知名度向上を目的とした調査については継続して行い、調査の中で市民の方から多くの声をいただいた、地元特産品の代表である「井原デニム」の発信についての調査・研究を進めました。結果、井原市の現状としては、積極的に「井原デニム」の発信に取り組んでおり、大きな効果を得られていることも認識できました。

また、調査の中で井原市の産業の歴史を検証した結果、「井原デニム」が井原市の立地条件や歴史背景などの偶然が重なって今日に至っているということを再認識するとともに、繊維産業に限らず、すべての産品に関わる個人、事業者の方々も同じように歴史を重ねてこられたということも改めて実感しました。

以上のことから、建設水道委員会で協議を重ねた結果、活気ある井原市を創っていくためには、「井原デニム」を井原市の象徴とし、官民一体となって継続的に市内外へ発信をしていく一つの手段として「〇〇〇〇〇条例」が必要であるとの結論に至りました。

調査に当たりまして、昨年末、アンケート調査にご協力をいただきました多くの市民の皆様、そして、ご多忙中のところ、意見聴取にご協力いただきました業界関係者の皆様方に心から厚くお礼申し上げます。」令和2年12月、井原市議会建設水道委員会委員長三宅文雄、副委員長多賀信祥、委員坊野公治、委員細羽敏彦、委員西田久志、委員佐藤豊ということで、大幅に修正をさせていただきました。

それで、冊子としてとじてあるのはこれなんですけれども、私の個人的な見解として、もう一枚あるかと思います。見てみてやってください。1枚物があるかと思います。その冒頭といいますか、前振りとして、「平成23年4月の議会基本条例制定から今年がちょうど10年目、年号も令和となり、井原市議会にとっても新しい時代が始まろうとしています」

という文章を付け加えてみてはどうかということで考えてみたんですが、委員の皆様方のご意見をお伺いいたします。必要なければそれでよろしいですし。

委員（西田久志君） 前回、前々回でいただいた報告書の「あとがき」はかなり短いんですね。

委員長（三宅文雄君） はい。

委員（西田久志君） これはこの前見たんですか。

副委員長（多賀信祥君） 報告書と並行して条例の中身を考えていく中で、「あとがき」自体が総括になるんで、前回の委員会で一旦これを作り直しましょうということになって、その案が今これで、案を出された後に委員長がもう2行追加したいなみたいところで、今最初の2行があるほうとないほうを出されとんで、冊子になつとるほうもゼロベースで皆さんに協議していただかんといけんのんです。

委員（西田久志君） ほんなら、2行だけが追加、要するにこの冊子になつとる「あとがき」が今日出てきて、ほいで委員長はこの2行だけを追加したと。ほかの内容は変わってないんですね。

副委員長（多賀信祥君） まず、「あとがき」自体をやり直そうということに前回の委員会でなったので、前回の委員会までの資料の「あとがき」についてはもう取りあえずゼロになりました。委員長案で、冊子になつとる分を事務局がこうやって製本してくれて今委員会資料として出とんですけど、だから今この冊子になつとる部分も委員皆さんで協議をしてもらう、これでいいか悪いか。プラス、委員長が続けて言うちゃったんですけど、起こし言葉みたいなのが追加で最初に2行欲しいかなということですので、まず25ページについて、あらずじ、文言を含めてこれでいいかどうか、皆さんで協議していただくところが最初に要るかなと思います。

〈休憩中に委員間で協議〉

委員（佐藤 豊君） 先ほど来、「あとがき」についてのいろいろな話がある中で、委員長のほうから今回の「あとがき」にここを付け加えたいというような思いの中で、「平成23年4月の議会基本条例制定から今年がちょうど10年目、年号も令和となり、井原市議会にとっても新しい時代が始まろうとしています」という枕言葉がそこに入りまして、本当に委員長の思いもそこに吐露されとんじゃないかというような思いもありますし、また前回までは条例を中心とした「あとがき」になっておりましたけれども、そこに至る過程等々も今回の「あとがき」の中に含まれた内容になっていて、本当に素晴らしいもんができたんじゃない

ないかというふうに思いますので、私としてはこの「あとがき」でよろしいんじゃないかというふうに思います。

委員長（三宅文雄君） ただいま佐藤委員のほうから説明がありましたように、皆様方にお示しいたしました「あとがき」の「平成23年4月の議会基本条例制定から今年がちょうど10年目、年号も令和となり、井原市議会にとっても新しい時代が始まろうとしています」ということを前文に加えて、以下は25ページに書いてある文面のとおりで、今までやってきたことをずっと書いているのでこの「あとがき」でよかろうというご意見でございましたけれども、ほかにご意見等がございますでしょうか。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） ただいまご協議いただきました「あとがき」について決定することにご異議ございませんか。

〈異議なし〉

委員長（三宅文雄君） 最後に、調査報告書の表紙についてご意見等ございましたらお願いいたします。

副委員長（多賀信祥君） 報告書はずっと案できていたので、ここは最初あったものを今日までそのままきてるんですけど、かがみの部分以降、目次から「あとがき」、それから添付資料について言うと、内容は「あとがき」にも入っているように、地産地消であったり地元消費であったり地域商社の調査研究、そして井原デニムということでしたので、端的に言うのであれば、私が言いたいのは、調査は先ほど言った地産地消、地元消費、地域商社の調査が主だったので、すぐにデニムにはつながらないということですが、地域経済の活性化を目的としてということが「あとがき」に書いてあるので、こういった「地域経済の活性化に関する調査報告書」とかのほうがいいのかと思うんですが、例えばです。それじゃあ言葉足らずであれば、地産地消、地元消費、地域商社の取組から見る地域経済の活性化についてのということになるのかと思うんですけど、そこまで入れるとまたデニムにつながらないので、やはり単純に「地域経済の活性化についての調査報告書」ということがいいのか。

委員長（三宅文雄君） ただいま副委員長のほうから「地域経済の活性化についての調査報告書」ですか。

副委員長（多賀信祥君） しっかりとそれで言い切れてるかどうか協議をしていただいて、足りない部分を皆さんに追加していただくなりまた新たな案をいただくほうがいいんですけど、私としてはこのままじゃいけないなと思います。

委員長（三宅文雄君） 副委員長のほうから「地域経済の活性化についての調査報告書」ということで、この当初の案では「井原デニムの普及を促進する条例（通称・デニム条例）制定についての調査報告書（案）」というふうに考えておりましたけれども、この名前では調査報告書の名前としてふさわしくないのではないかということ、地域経済の活性化についての調査報告書ということでしたらどうかという案でございますけど、ほかの皆様方、何かよい報告書の名称等がございますでしょうか。

〈休憩中に委員間で協議〉

副委員長（多賀信祥君） 先ほど発言した内容でいいますと、報告書を作るに当たって、もともとは地域産業の活性化、地域経済の活性化について課題があるということで委員会では取り組んでまいったので、「地域産業の活性化に関する調査報告書」という題名がいいと思います。

また、それに合わせて1ページの「はじめに」ということでいいますと、下から2行目のところで、先ほど報告書の題名に使いました地域産業の活性化という文言なんですけど、ここも合わせて「地域」の後に「産業」を入れるということで統一したほうがよろしいかと思えます。

委員長（三宅文雄君） ただいま副委員長のほうから、題につきましては「地域産業の活性化に関する調査報告書」ということと、1ページの「はじめに」の下から2行目のところを「地域産業の活性化を図ることを目的に」というように訂正したらどうかというご意見でございますが、この件につきまして何か皆様方からご意見等がございますでしょうか。

委員（佐藤 豊君） それでよろしいと思います。

委員（西田久志君） それでよろしいと思います。

委員（坊野公治君） よろしいです。

委員長（三宅文雄君） それでは、皆様方のご了解をいただきましたので、表紙の調査報告書の題につきましては先ほど申しましたように訂正をいたします。

それから、「はじめに」につきましても、地域産業の活性化というふうには、産業という文字を加筆いたします。

以上でただいま協議したとおり決定することにご異議ございませんか。

〈異議なし〉

委員長（三宅文雄君） それでは、本日の検討結果を基に調査報告書を修正いたしまして、次回の委員会で再度決定といたしますか、それとも最終決定といたしますか。どのように進めていったらよろしいでしょうか。

委員（佐藤 豊君） 先ほどありましたように、まだデニム条例の名称が決まってないので、次回で最終決定という形にはならんのではないかというように思うんで、そのときに皆様方からの再度の意見を聞いて決めて、その次かなというふうには思うんですが、いかがでしょうか。

委員長（三宅文雄君） 他の委員の方いかがでしょうか。

〈意義なし〉

委員長（三宅文雄君） それでは、再度検討するというので今後進めてまいりたいというふうに思います。

〈その他〉

委員長（三宅文雄君） それでは次に、2、その他ですが、次回委員会は11月20日金曜日午前10時からを予定していますので、よろしくお願ひいたします。

なお、今後の予定といたしまして、11月20日の委員会で調査報告書が最終決定できれば、その後私と多賀副委員長とで執行部と川井会頭へ意見聴取に何うようになろうかと思いますが、まだ決定しておりませんので、日程については保留としたいというふうに思います。

ほかに皆様方から何かございますでしょうか。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） それでは続きまして、12月定例会の所管事務調査について、建設水道委員会として所管事務調査事項に取り上げていただきたいというふうなことがございましたらお願いいたします。

〈休憩中に委員間で協議〉

委員長（三宅文雄君） それでは、所管事務調査事項につきましては継続調査ということで前回決定をしておりますが、一部12月定例会で発展があるというふうな指定管理については調査する必要もなからうというご意見もございましたので、委員の皆様方から次回までに所管事務調査事項として取り上げていただきたいというふうな件がございましたら、この委員会において発表していただければなというふうに思っております。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） 先ほども申しましたけれども、調査報告書が最終決定できればということで、私と多賀副委員長とで執行部と川井会頭のほうへ意見聴取に伺おうということを用意しておりましたけれども、最終決定をいただいた後ということで訂正をさせていただければなというふうに思います。ということで、ご了承いただけますでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（三宅文雄君） 以上で建設水道委員会を閉会いたします。大変ご苦労さまでございました。